



楠隼Letter

～ 来たるべき日のために ～

鹿児島県立
楠隼中学校
楠隼高等学校
令和7年度

6月号



さらば男隼～the final stage～

6月14日（土），男子校としては最後にあたる文化祭が行われました。今年度のテーマは「さらば男隼～the final stage～」ということで，生徒たちのそれぞれの思いのこもった舞台発表や展示発表が行われました。

中学1年生は初めての文化祭ということで，折り鶴アートをテーマとして，2学級がそれぞれ展示発表を行いました。また，今年度体育祭が4月開催となったためにできなかった自顕流発表もこの文化祭の舞台発表として行いました。代表者の発表では，薬丸野太刀自顕流の師範の方に受けてもらいながら，猿叫（えんきょう）という大きな発声を出して，迫力のある演舞を見せられました。

また，今年度最後となる高校3年生は毎年恒例となる舞台発表「ジゲンジャー」シリーズの「ジゲンジャーZ」を披露。今年はジゲンジャーが2組現れるという新たなシチュエーションのもと，今年度も映像を交えつつ，そして，迫力のある戦闘シーンを見せて，会場を大きく盛り上げてくれました。

自由部門では，宇宙技術部や音楽部をはじめとする各部活動の発表や有志によるラップバトルやオタゲーなどのバラエティに富んだ演目の数々が披露されました。

来年度から共学化ということで，女子生徒も参加する文化祭となります。これまで「男子」色の強い文化祭がどのように変化するのか，楽しみです。会場に見に来てくださった地域・保護者の皆さま，本当にありがとうございました。





楠隼Letter

～ またるべき日のために ～

鹿児島県立
楠隼中学校
楠隼高等学校
令和7年度
6月号(裏面)



トップリダー教室

本校では年に3回、「トップリダー教室」が開催されます。今年度第1回は、6月2日(月)に行われ、ゲストとして漫画『数学ゴールデン』の著者・藏丸竜彦先生をお迎えしました。

「数学は、考える力を育てると僕は思っている。」という演題のもと、藏丸先生は「なぜ数学を学ぶのか」について、熱意を込めて語ってくださいました。その中で、数学は単なる計算の技術ではなく、問題を解決し、計画を立て、実行するために必要な思考力を養うものであると話され、生徒たちに新たな視点を示してくださいました。

生徒たちは積極的に質問を投げかけ、藏丸先生はその一つひとつに丁寧に答えてくださいました。会場は真剣さと熱気に包まれ、充実した学びの時間となりました。

私自身、高校生の頃は数学が苦手で「数学が人生で本当に役に立つのだろうか」と疑問に思っていた一人でした。しかし、大学で「論理学」を学んだときに、数学と論理学との共通点に気づき、後悔した経験があります。現在、英語を教える立場になり、英語の読解や英作文にも論理的思考力・表現力が不可欠であることを実感し、「もっと数学を学んでおけばよかった」と痛感しています。

高校ではすでに英語の「論理表現」や国語の「論理国語」といった教科も始まり、論理力を重視する教育改革が進められています。これは将来、国際社会で活躍する人材の育成を目指す国の方針とも重なっているでしょう。若い脳が柔軟なうちに数学にしっかりと向き合うことは、他教科への応用だけでなく、物事の見方や考え方そのものを深めてくれます。藏丸先生の講演は、そのことをあらためて気づかせてくれる、大変貴重な機会となりました。藏丸先生のお話は生徒達にとって多くの気づきや学びを得る貴重な経験となる講演会でした。さて、第2回はどのようなトップリダーの方がいらっしゃるのでしょうか。今からとても楽しみです。

